

エドワルドの取り次ぎによる恵み

聖性の誉れのある人物に特別の恵みの仲介を願う信心は、教会において常に行われてきました。属人区オプス・デイの列福列聖請願事務局に届いた報告の中から、その一部を紹介します。

2006/11/06

肺癌と2つの気胸

息子に肺癌が見つかりました。神のしもべ・エドワルド・オルティス・

デ・ランダスリを通して、息子の治療を神様に願いました。家族にも祈るように頼みました。

当初、医者は手術のできる箇所であると言っていました。だんだん病状は悪くなっていきました。腫瘍専門の医師は、両肺間の縦隔に腺病があり、腫瘍が気管のすぐそばにあるために手術はできないということです。余命は長くて2年といわれましたが、とにかく、toracotomíaを行うことになりました。

生体組織片の検査を行おうとした際に、2つの気胸が起こってしまいました。私たちはエドワルドに祈り続けました。そうしたある日、気胸の状態を調べるためにレントゲン写真を撮ったところ、影が小さくなっており、腺病が消滅していると医者が言うのです。そうなるような治療をしていたわけではないのです。

さらにしばらくしてから、他の専門医に診てもらいましたが、彼は癌が治っていると言うのです。最後に、ナバラ大学病院で、生体組織片の検査をしてもらいましたが、やはり腫瘍は見つからなかったのです。

A.V.

生存能力のなかった胎児

嫁が最初に受診した超音波診断で、双子であると診断されました。2回目の検査では、まったく平常でしたが、3回目の検査で、産婦人科の医者は、尿管が完全に閉塞しているために、胎児の一人は生き延びることができないと言うのです。同僚の医者もその診断を確認した上で、一方の胎児のためにも、問題のある胎児を中絶するように勧めました。

他の専門医に受診したところ、囊腫（のうしゅ）かもしれないとのことでした。しかし、最初の超音波診断

の結果は正しいようでした。さらに別の医師に受診しましたが、結果は同じでした。ただ、閉塞は部分的であるかもしれないとのことでした。

当初からエドワードさんの取り次ぎを祈りました。というのも、嫁は医者でるので、きっと祈りを聞き入れてくれると思ったからです。妊娠期間は進んでいきました。嫁は静養しなければなりませんでした。そして、予定日より1ヶ月早く、とてもかわいい二人の赤ちゃんが誕生しました。奇跡で生まれた男の子と、もう一人は女の子です。家族皆が喜びに包まれたことは言うまでもありません。エドワードさんに心から感謝しています。

Ma. H. V. A.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント
[https://dev.opusdei.org/ja-jp/article/
edowarudonoqu-rici-giniyoruhui-mi/](https://dev.opusdei.org/ja-jp/article/edowarudonoqu-rici-giniyoruhui-mi/)
(2025/08/04)